

## ❖2年生（第12回生）保護者アンケート集計結果の分析・考察

### およびご意見への回答❖

#### 1. 今年度の保護者アンケートについて

本校では、各学年の保護者会については年に1回開催している。2年生の保護者会は、特別教育活動の1つである「宣誓式」と同日開催を恒例とし、宣誓式終了後に、現在までの学習状況や後期教育課程のこと、就職・進学ことなどを説明している。

今回、宣誓式ならびに保護者会に出席された保護者の方々を対象に「本校の教育活動に関するアンケート」調査を実施した。宣誓式に出席できなかった保護者の方々に対しては、アンケート用紙と返信用封筒を自宅に郵送し、協力を仰いだ。この郵送分については、アンケートの設問「8」の一部を変え「当校へのご要望、ご質問等を自由にご記入ください。」とした。

なお、このたびのアンケート回収率は96.2%（アンケート対象数：27、回収数：26）であった。

#### 2. 集計結果の分析・考察

- 1) について、9割以上の保護者が「知っている」（よく知っている、だいたい知っている、やや知っている）と回答した。これは、入学式後に行う「1年生保護者会」で強調して説明する内容であり、本校のホームページにも掲載されているため、「知っている」との回答が高くなったものと考えられる。
  
- 2) について、回答数が多かったのは「1. 目標に向かって自分の課題に取り組めるようになった」と「4. 他人への思いやりや気配りができるようになった」であった。この2点は、2年次の学年目標および本校の卒業時の到達目標に繋がるものであり、学生は確実に学びの成果を獲得していると言える。学生の一番身近におられる保護者の方々が、看護師になるための成長を実感していることが分かる結果となった。
  
- 3) について、全保護者が「主体的に学習できている」（とても主体的に学習できている、主体的に学習できている、ある程度主体的に学習できている）と回答した。本校は専門課程を持つ専修学校であり「高等教育機関」である。ここでの学習スタイルは、与えられるのを待つのではなく、自らの頭で考え疑問を探求していく「自主能動」の姿勢が求められる。今回の結果に甘んじることなく、引き続き教員は授業の構成を工夫し、一人ひとりの学生の主体性を引き出すような支援をしていく必要がある。
  
- 4) について、9割以上の保護者が「知っている」（よく知っている、だいたい知っている、やや知っている）と回答した。特別教育活動については、ここ数年のコロナ禍において規模を縮小しての開催、あるいは中止の判断をせざるを得なかったこともあり、ねらいにそった活動ができているとは言い難い。しかし「看護学生としての自覚と協調性を養い人間性を育成する」ことを目的とする価値ある活動であるため、新型コロナウイルス

感染症の拡大状況を慎重に見極めつつ学生の活動を支援していきたい。

- 5) について、「知っている」(よく知っている、だいたい知っている、やや知っている)は約6割、「ほとんど知らない」は約4割という結果となった。このスクールカウンセリングについては、本年度から運用された事業である。4月に全学生を対象に、そのねらいや開設曜日・時間、予約方法などを説明している。スクールカウンセリングは本校の学習支援の一環であるため、ホームページ等を活用して保護者の方々への周知を図る必要がある。
- 6) ー1. について、6割以上の保護者が「新しい情報がタイムリーに得られる」と回答したが、約1割の保護者は「なっていない」との回答であった。6) ー2. で具体的な意見を頂戴できたので、これらの意見を参考に早急に改善を図っていきたい。また、「見たことがない」との回答も2割弱であった。ホームページは酒田市立酒田看護専門学校の情報発信の場であることを、入学時の保護者会でのPRなども必要かと考える。いずれにしても「見たくなるようなホームページ」になるよう工夫していく必要がある。
- 7) について、「話をする機会をもっている」(よくもっている、もっている、ある程度もっている)は約9割にのぼり、学生と保護者の方々とのコミュニケーションがよく図れていることが明らかになった。(当校に限らず)看護専門学校のカリキュラムは非常に過密で、その学習内容の特性上、臨地実習における「対人関係」に大きなストレスを感じる学生も少なくない。そのような中であっても「看護師になりたい」という初志を貫こうとする学生をあたたく見守っていただいている様子がうかがえた。私たちも教員という立場で、「看護師になりたい」という学生の意思を尊重しながら成長を促していきたい。
- 8) の自由記載については、宣誓式に臨んだ子どもの姿をみて成長を感じた一との感想が多かった。ここに至るまでの教職員への感謝の言葉も頂戴でき、たいへん有り難く励まされる思いである。質問・要望についてもご意見を頂戴したので、この紙面を借りて回答させていただきたい。

**・つまずきに本人も気づいていますが、どのように対応していったらいいか悩みががんばっていますが、結果にでません。学校で補習等行ってもらえないでしょうか。**

➤お子様の姿を、常に関心をもって見守っておられる様子がうかがえました。ご意見ありがとうございます。

先の分析・考察でも述べましたが、(当校に限らず)看護専門学校のカリキュラムは非常に過密です。それは、看護が人間の「生命」や「生活」に直接かかわる仕事で、その仕事をするための免許を得るための勉強だから一とも言えると思います。人間性豊かな看護の専門職業人になるための学びの過程においては、誰しも「つまずき」や「行き

詰まり」を経験します。むしろ私たち教員は、その「つまづき」や「行き詰まり」は学生が人間として大きくステップアップするためのチャンスと考えます。「つまづき」や「行き詰まり」を克服していく主体は学生自身なわけですが、学生が何らかの行動をおこすためには、学生にとって教員との関係性は安心で安全なものでなくてはならないと考えています。安心で安全な環境があってこそ学生は自由な思考や発言が保証され、その中から克服のための手がかりが見つかるものと考えます。

お子様は「つまづき」に気づいておられるとのこと、自分をちゃんと客観的に捉えることができているんですね。「つまづき」を経験しているお子様は現在、学習者（学生）から援助者（看護師）に変化していく過程にあるのでしょうか。「看護学生として順調な成長過程にある」と見ていただきたいと思います。

本校では「縦割り・少人数担当制＝ゼミ担当制」の学習支援体制を採用し、一人ひとりの学生へきめ細かい学習支援を行っています。ですので、結果につながる学習のしかたについてゼミ担当教員と相談しながら、自分なりの学習スタイルを確立していくことが大事かと思います。「補習」という形ではありませんが、必要と判断すればその学生の「弱点、や「不得意、な科目に合わせた課題を提示する」というサポートも行っていきますので、ゼミ担当教員に相談してみるようお子様にお声がけください。

#### ・ゼミの先生によって対応の違いはないでしょうか。

➤ご質問ありがとうございます。本校の学習支援体制についてご理解いただきありがとうございます。お子様と学校のことを話す機会が多いご家庭なのだろうな…ということが感じられました。

このご質問に至った出来事や場面など、具体的なことが分かりかねる中での回答になりますので、一般的なことしか申し上げられないことをご勘弁いただきたいと思っております。

本校では、6名の専任教員が「縦割り・少人数担当制＝ゼミ担当制」で学習支援を行います。それぞれの教員の臨床経験、教員経験、年齢等はまったく違います。そのような経験値や属性から導かれる「対応」には当然ながら多少の違いは生じるものと思っております。ですが、私たち教員は、本校の教育理念と目的を最大の拠り所として、そして卒業時の到達目標を最終のめあてとして看護師を育成しております。その点においてはどの教員も一貫してめざすべきところは同じです。また、学生の状況については、教務会議の場で情報共有をし、指導の方向性を検討しており、全教職員で学生の育成に携わっているという認識でおります。このような体制をとってはおりますが、ゼミ担当教員の対応に疑問がある、承知できないという場合は、学生の学習支援に関する主務者である学務主任、あるいは「この先生に話してみようかな」という教職員（役割や職位に関わらず誰でも）に相談してみるよう、お子様にお話しくだされれば幸いです。

日々学生と関わる教員は、看護師を目指す学生たちにとって、最大のロールモデルと

ならなくてはなりません。ですので、教員の対応が学生にストレスを感じさせ、成長を阻害するようなことがあってはならないことと認識しております。今後とも気になることがありましたら、遠慮なくご指摘ください。

《最後に》

今回のアンケート調査にご協力を賜りました保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。頂戴した回答ならびご意見は関係者および関係各所と共有し、本校の教育の質向上に向けた資料として活用させていただきます。

本校教職員一同、この結果を真摯に受け止め、看護の専門職業人の育成にむけてよりよい学校教育を行うよう努めて参ります。今後とも、保護者の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年8月1日  
酒田市立酒田看護専門学校  
副学校長 渡會睦美